

バイパス供用による萩市内中心部の渋滞緩和

対策事業



萩バイパス

平成18年部分供用予定



萩川上線

平成18年10月供用

■ 萩市内中心部の渋滞緩和を目指します。

国道262号萩バイパスは、市内中心部を通過する現道の慢性的な渋滞解消を目的に整備を進めています。
平成18年度は、萩市椿地区の改良工事を推進し1.2km区間を部分供用する予定です。



国道262号現道の渋滞状況



施工中の状況(萩バイパス)

■ 萩川上線の交通円滑化を目指します。

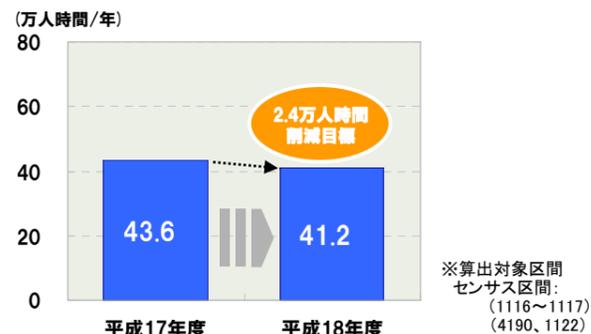
県道萩川上線は、萩市街地周辺の住居地を通過し、沿線の松陰神社や、道の駅「萩シーマート」等の主要観光施設へのアクセス道路として利用されています。
しかし現道は歩道が狭小で、集中する観光交通と一般交通によって大変危険な状況であり、安全で円滑な交通の確保を目的としてバイパス(延長1.8km)の整備を進めています。
平成18年10月に残りの区間(0.8km)を供用しました。



空から見る萩川上線

■ 渋滞損失時間の削減が期待できます。

これらバイパスの供用により渋滞が緩和し、平成18年度の目標達成に向けて、約2.4万人時間/年の渋滞損失削減が期待されます。
また、萩川上線に交通が転換することにより現道部分の交通渋滞が緩和され、車両及び歩行者の安全性の向上が期待できます



期待される渋滞損失削減効果

取組み概要

期待される整備効果

地域の自活を支えるみちづくり

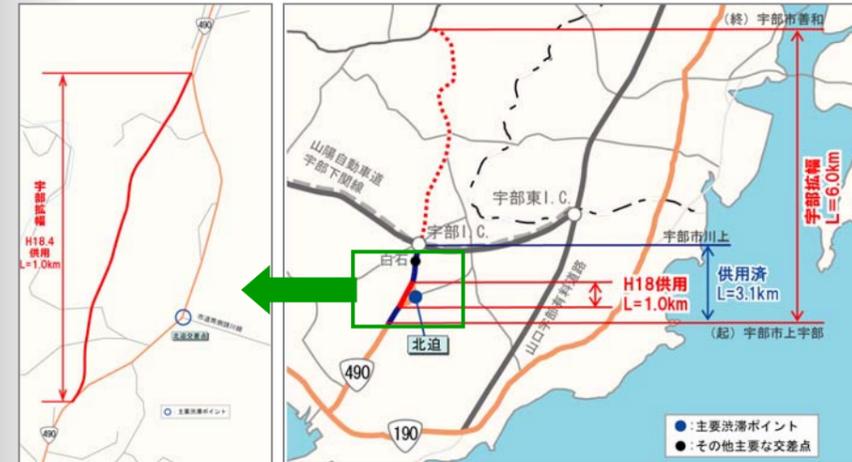
バイパス供用による宇部市街地北部の渋滞緩和



宇部拡幅

平成18年4月部分供用

国道490号の宇部市街地北部では北迫交差点などの主要渋滞ポイントで慢性的な渋滞が発生しており、市民生活や都市活動に深刻な影響を与えています。
宇部拡幅は、これら宇部市街地北部の渋滞緩和や、山陽自動車道宇部下関線宇部ICへの連絡を強化する道路として整備を進めています。
平成18年4月に川上地区の1.0km区間を部分供用しました。



供用前 (国道490号の渋滞状況)



供用区間

取組み概要

■ 北迫交差点付近の渋滞が緩和されました。

平成18年4月開通以後、北迫交差点付近の国道490号の渋滞が大きく緩和されました。
この供用により、主要渋滞ポイントである北迫交差点の渋滞が緩和され、7.1万人時間の渋滞損失の削減が見込まれます。



供用前



供用後

期待される整備効果

■ 住民の方々が効果を実感しています。

国道490号のバイパスが完成して、川上地区の朝夕の渋滞が大幅に緩和され、宇部市街への通勤時間が短くなりました。後は、国道の工事が完成し、市道が国道まで延伸すれば、川上地区の渋滞が解消されると思います(会社員)。



平成19年度目標

■ 平成19年度までに1割削減(457万人時間/年削減)を目指しています。

平成19年度までに渋滞損失時間を15年度基準で1割削減することを目標とし、毎年度の渋滞状況を把握しながら渋滞対策を推進していきます。
平成19年度の渋滞損失時間目標値は4,104万人時間と設定しています。

地域の自活を支えるみちづくり